

横田の

第14 15 16 17

政治せいじりぽーと

SEIJI'S REPORT



ごあいさつ

はじめに

皆さまこんにちは。富山県議会議員の横田誠二です。

この度は、私の活動報告書「横田の政治りぽーと」を手に取り、お読みいただきありがとうございます。また、日頃より格別のご支援とご指導を賜っております関係の皆さまに重ねて感謝申し上げます。

今般、一昨年の令和6年10月に富山県議会議員としての任期を開始させていただいてから、初めての本紙発行となりますが、タイトルの通り、私の議員としての活動を皆さまにお伝えするためのもので、平成25年に高岡市議会議員となった1期目は半年に一度、2期目以降は年に一度の発行を目標に取り組んできています。

しかし、発行を重ねる毎に当該予定に遅延が生じており、これもひとえに私の力不足で、誠に申し訳ございません。ただ、1日1日、お一人おひとりを大切に活動してきたことで、今日の私があると存じており、伝えるべき内容を割愛することなく記載することとし、今回は第14～17号分をまとめた合併号の形で発行したものです。

前号(令和5年夏)以降

ここで、前号以降の活動を顧みますと、令和5年夏の発行から程なくして、高岡市議会では例年通り議会諸役員の交代を伴う政局が動きました。私は若くして議員になったこともありますが、高岡市職員時代から議会の権力闘争を目の当たりにし、それを改善しようと議員になりましたので、自分が一歩下がり円満・円滑な活動を心掛けてきました。また、既に議会の最大会派が当選2回の方を副議長に輩出中でしたので、自分は議会公職に就けないと考え、そのように発言していました。

しかし、同期当選及び同会派の年長議員が私の背中を押してください、「結果はどうあれ人事を尽くそう」と考え、行動することができ、会派等への訪問の中で学び得たこともありましたし、最大会派からは、条件付きで前向きな話しも賜りました。その結果、令和5年12月定例会で在籍議員26名全員の信任を得て、満票で副議長に就任させていただいた次第です。

なお、前述の条件について、大きくは1年間での副議長辞職と、その職務者として中立を保つことで、これを履行するために10年以上の議員活動の中で初めて会派を離脱し、一人会派「無所属」を設立したものです。

議長は同期当選の本田議員で、伸び伸びと仕事をさせていただきました。就任翌月には「令和6年能登半島地震」の対応があり、その後も高岡市議会

災害対応マニュアルの見直し、議員定数をはじめとする「高岡市議会基本条例」第25条の規定に基づく4年に1回の見直しなど、中身の濃い、実りある活動となりました。

このような中、副議長として最後の議会、令和6年9月定例会中の9月18日(水)、渡辺守人富山県議会議員がご逝去される事態が生じました。ここに、改めて哀悼の誠を捧げ、本県へのご貢献に感謝の意を表すものですが、ここで問題となったのは、本件が富山県知事選挙執行前であったため、公職選挙法の規定で県議会議員の補欠選挙が執行されるとなったことです。

令和6年10月以降

現職議員のご逝去であり、その後継としてご遺族、後援会員等が立候補される場所ですが、関係の皆様はそれを断念され、自民党高岡市連に候補者の選定を委ねられました。これを受けて私は、これまでの行政・政治活動で抱いた県政に対する思いを形にするなど、本県の発展に貢献しようと立候補を決意し、令和6年10月から県議会議員としての活動を開始させていただくに至りました。

以後、任期開始から1年半余りの間に定例会が6回開催され、そのうち質問機会を5回いただき、様々な質問及び提案をしてきました。詳細は本紙をご覧いただければと存じますが、選挙で訴えた「環日本海の中核拠点都市とやま」の創造に向けた観光振興や本県の魅力発信、航空ネットワークの充実をはじめ、人口減少対策や行財政改革、医療提供体制の確保といった全県的な質問、あるいは高岡・氷見警察署の統合や高岡テクノドーム別館整備に係る問題など、高岡市関連の質問等、様々な質問をしたところです。

これら議会活動報告の他、行政課題及び住民要望の解決・実現の成果、写真をもとにした地域活動等、従前通りの項目を掲載しましたので、ご高覧くださいようお願い致します。なお、本紙の電子版を私の公式ホームページでも広く発信するとともに、FacebookやInstagram等のSNSを通じて日々議員活動を広報しており、ぜひフォローの上、ご覧いただければ幸いです。そして、直接または電子媒体を通じて、ご意見やご要望、相談等をお寄せくださるようお願い申し上げます。

結びに、今年度の皆さまのご健勝とご多幸、ご活躍をお祈りし今号発行に当たってのご挨拶とします。

横田誠二

議会活動

富山県及び高岡市議会は年4回定例会を開催しており、議員は県政及び市政一般や提出された議案に対して質問ができます。

また、県議会では定例会ごとに予算特別委員会が設置され、一問一答方式の質問により議論を深めます。これらの機会を通じて、質問に立ちました。

ここではその内容についてお知らせします。



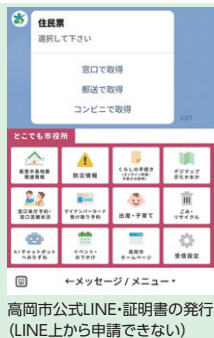
市議会 令和5年3月定例会

ICTを活用した市民の利便性及び行政効率の向上に向けて

質問

令和元年9月に、「各種行政サービスにLINE等の活用を提案」した件は、「調査、研究する」と答弁頂き、その後、新型コロナウイルス感染拡大により、ワクチン接種予約専用としてLINEが用いられ、今月1日からサービスを拡充された。

今回の拡充を受け、証明書を郵送での取得方法を確認したところ、請求書も手数料も市に郵送が必要。例えば渋谷区では、LINEで申請し、手数料もLINEPayで決済可能。そこで、個々の手続き及びサービスが一貫してデジタルで完結できるよう提案するが、考えは。



高岡市公式LINE-証明書の発行(LINE上から申請できない)

答弁

3月の公式LINEリニューアルにより、必要な情報を直接届ける「 PUSH型配信」や各種申請への対応を開始した。今後は国のマイナンバーカード活用に合わせて、各種証明書の添付不要化などを進める。また、令和6年度に予定の「窓口業務改革」のスケジュール前倒しも視野に入れ、デジタルで利便性を高め、事務の効率化を加速させていく。

エネルギー価格・物価高騰対策について

質問

エネルギー価格・物価高騰対策について、市は幅広く対策に取り組む中、県が2月補正で「エネルギー価格・物価高騰対策」として、農業用電気料金高騰緊急支援事業などに取り組むとされた。

この農業分野は、市では6月定例会に「農業経営安定化緊急対策事業」を予算補正したが、それはコロナ禍による米価下落等への支援が主であり、エネルギー価格高騰に係る対策が必要。先般、生産組合関係者からも支援要請があった。

そこで、本市も農業などの未対応分野への支援が必要と考えるが、予算対応は。

答弁

これまでも補正予算で対応してきたが、新年度予算ではさらに「子育て世代への支援」などを拡充した。農業などの未対応分野についても、エネルギー価格の動向や現場の声を真摯に聞き、国の交付金も有効に活用しながら、補正予算等で適時適切に対応していく。

人口減少対策について

質問

婚姻件数の推移は、最高の婚姻件数が1972年の109万9,984組で、2021年は50万1,138組と、60万組近く減っている。夫婦の最終的な出生子ども数「完結出生児数」は、1972年が2.20で、2021年が1.90人と、約50年間2人前後で推移している。これに対し、「合計特殊出生率」は、1972年が2.14で、2021年が1.30であり、当該数値には15~49歳までの未婚女性も母数に含まれるので、未婚率が高まればそれだけ合計特殊出生率が低下するもの。

これらの数値から分かる通り、出会いから結婚に至るまでの支援が最優先事項であり、合計特殊出生率や婚姻件数等の諸情報を踏まえた現状分析により、的確に人口減少の克服を進めるべきだが、当局の考えは。

答弁

多様な価値観を尊重しつつ、広域連携による出会いのイベントや若手職員による検討を進める。また、不妊治療助成や子育てアプリ刷新、医療費助成の高校生までの拡大など「切れ目ない支援」を徹底する。

質問

今月1日の朝刊で、県のアンケート調査結果における若い女性の県外流出の要因は「会社や仕事が少ない・ない」との回答が最多と報じられた件について。

これに関しては、今年度、私が委員長を務めた高岡商工会議所青年部から市に人材定着等について提言したが、若い女性の皆さまには、ぜひ高岡に残って頂く必要があるため、その対策方針をお聞かせ願う。

答弁

中高生への就業体験や大学生向けインターンシップを通じ、地元企業の魅力を伝えることで、若者が県外へ流出するのを防ぎ、地元に留める「ダム効果」を狙う。女性に魅力的な職種の設定も検討する。

学校再編に係る課題について

質問



児童の通学路沿いの用水(幅が広く、開渠となっている)

昨年夏に市内の子どもが用水を経て海に流された事件を受けて、通学路の用水転落防止策が保護者から寄せられた。また、私の地元から、市の除雪路線かつ児童の通学路を自治会が重ねて除雪しており、作業者の高齢化や統合後の児童の通行量増加を踏まえ、消雪管配備等の環境改善を求める声が寄せられた。

そこで、学校再編を期に、様々な声が寄せられることへの市の考えは。

答弁

開校数年前から通学路案を作成し、保護者・警察等と連携して現場点検を実施している。指摘のあった用水対策や積雪時の歩道確保についても、対策を検討中。今後再編統合の学校も、児童が安全に通学できるよう対策を講じていく。

企業誘致及び支援による経済振興に向けて

質問

今般、平成23年9月末に操業停止した「株式会社新日軽北陸高岡工場」の跡地に、複数の企業が進出している。当該土地は民有地だが、今年の秋から操業予定の企業は200名の従業員が勤務予定で、通勤・帰宅時の交通安全確保や、工場予定地に隣接する狭隘な市道の対策など、複数の課題がある。

そこで、地域住民と企業の双方が安全安心で円滑に活動できるよう市は対応する必要があるが、考えは。

答弁

企業立地を推進しつつ、周辺道路の環境変化に応じた交通安全確保のため、企業側の協力を得ながら、住民の皆さまの安心と両立させていく。

質問

また、当地区(新日軽跡地)周辺では過去に浸水被害があり、その後も被害が生じそうな事態に幾度も見舞われてきたことから、企業進出に当たっては十分な浸水対策が必要で、地域からも、長年の懸念事項の解決を望む声が寄せられている。

なお、市は平成26~27年にかけて、準用河川四屋川内水処理計画検討業務及び内水処理計画策定を行ってきており、その点も踏まえた当該地区の浸水対策の考えは。

答弁

四屋川の改修検討に加え、水位計設置による調査、ポンプ稼働の早期化、さらに企業への協力要請など、短期的・中長期的な対策を組み合わせて、浸水リスクの低減に全力を挙げる。

本市伝統産業の継承及び地域の活性化に向けて

質問

平成29年3月に「金屋鋳物師町工房（仮称）整備計画」を策定された。そして、令和2年度に団体観光客等を屋内で受け入れできる鋳物師町交流館を整備され、それと前後して市の構造的財源不足と感染症の拡大に直面して今日に至る。

地元の金屋町から、事業再開への期待の声が寄せられており、整備計画の進捗と見通しについて伺う。



金屋鋳物師町工房（仮称）整備計画地

答弁

伝統技術の継承のため、既に供用した研修棟の利用を促進する。未着手の整備については、最新の財政状況やアフターコロナの観光トレンドを考慮し、地元住民やNPOの皆さまのご意見を伺いながら、適切に対応していく。

健全で持続的な財政運営に向けた高岡市行財政改革推進プランについて

質問

新たな「高岡市行財政改革推進プラン」について、年間45億円の事業債発行限度額を設定されたが、単年度で起債制限を設けることで、工事期間を通常より長く取らざるを得ない事態が生じている、あるいは今後生じる懸念がある。例えば、これに該当する事例が分からないが、消防本部等の改築は7か年度に渡って行われる予定。一般論として、工期は長くなるほど経費がかさむ。

なお、平成30年8月29日の「高岡市財政健全化アドバイザー会議」における「高岡市の財政健全化に向けた意見」で、市債発行は、単年度あたりの上限額に厳格にとらわれることなく、複数年度間で市債発行額を調整するなど適切かつ柔軟に行うよう助言されている。

以上を踏まえ、事業債発行額を計画期間など複数年で考えるなどにより、財政の弾力性向上や歳出削減を図るよう提案するが、考えは。

答弁

持続可能な財政のため、市債発行の適正化を定めたところ。物価高騰による建設費上振れ等の懸念は認識しており、まずはプランに掲げた市債の適正管理の着実な実行を基本とし、基金活用などで年度間の財源不均衡に対応していく。

答弁

被災者が発災直後から行うことや注意すべきことについて、他都市の事例を参考に、パンフレットの作成やホームページ等での周知を検討する。

質問

被災者から、市役所の各課を回るだけで半日、1日がかりの仕事になるとの声があった。これを踏まえ、被災者が訪問すべき市の窓口を1つに集約した臨時の総合窓口や、被災者用の優先窓口を設置するなど、被災者の負担軽減に資する行政運営方法を検討してはと考えるが、所見は。

答弁

今回実施した直接案内等の成果を活かし、臨時の総合窓口設置も選択肢とし、さらには、一步踏み込んで「市役所に足を運ばなくて済む対応」も含む、被災者に負担をかけない行政運営のあり方を検討する。

質問

住家の被害認定について、砺波市や小矢部市は「準半壊に至らない一部損壊」であれば、罹災証明交付申請書と写真で被害認定する。これを参考に、効率的で迅速な被害認定に向けて改善を図ってはと考えるが、所見は。

答弁

今回の調査でも床下浸水（235件）の多くが写真で確認できた実績がある。認定期間の短縮に直結するため、今後の改善点の1つとして検討する。

質問

今災害発生原因の1つが、水路等に刈草やゴミ等の障害物が流入し、閉塞したことで水が溢れ、低い土地に流れ込んだことによるものと市から伺った。

農業に従事する一般の市民団体、例えば用水管理組合が管理する農業用水路は、今後ますます適正な管理が難しくなると考えられるが、市の対応方針は。

答弁

農業用水路の管理は用水管理者が行っており、管理者不在地区は、沿線自治会が管理しているが、高齢化等で苦慮していると伺っている。引き続き適正な管理をお願いしていきたい。

なお、管理等の相談があった場合は有効な対策を検討するとともに、県や関係市等と連携し、水路が閉塞しないよう、刈草の適正な処理に関するチラシの配布等で啓発していく。

市議会 令和5年9月定例会

7月12日から13日にかけての大雨による被災経験を踏まえた災害に強いまちづくりに向けて

質問

7月12日夜から13日朝にかけて「高齢者等避難」を出していない。また、避難情報を出していない石堤地区で住家被害が生じた。これらの理由は、線状降水帯の発生により、短時間で避難が必要な状態に及んだことや、河川ゴミ等が川の水の流れを阻害して溢れたことにある。

今回生じた事実を踏まえ、その理由や今後留意すべき点を市民に示すなど、対応が必要と考えるが、所見は。

答弁

中小河川では流木等による予期せぬ水位上昇があり、判断が極めて困難だった。今後は、気象や河川水位を一元管理する「災害情報システム」を活用し、迅速な発信に努める。また、「行政の情報を待たずに命を守る行動をとる」意識を、出前講座等を通じて市民と共有していく。

質問



R05.07.12上二上自治会・万葉の杜水害の様子

被災者から、行政からの助言等を求める声があった。これを踏まえ、被災直後から各場面で取るべき行動、例えば、罹災証明の取り方や、災害救助法適用の場合は国の「住宅の応急修理制度」が活用可能なことなど、市ホームページや配布可能な書面にまとめるなどしてはと考えるが、所見は。

社会情勢の変化に対応した適切な財政運営について

質問

当初予算で計上した既定の各事業に加え、災害対策事業が追加となり、また、これら既定及び新規に係る投資的事業が物価上昇の影響による建設費上振れの変動要因となる。この件は、基金の活用などで対応していくとのことだが、住民負担の世代間の公平のための調整機能を有する「地方債」も財源確保策として考慮すべき。

この財政運営に関しては、「高岡市行財政改革推進プラン」で年間45億円の事業債発行限度額を設定したが、「単年度」で起債制限を設けることで工事期間を通常より長く取らざるを得ない事態が生じ、一般論として工期は長いほど経費がかさみ、市政課題の解決も遅れる。一方、工期延長せずに建設費上振れ等への対応として、通常の地方債発行資格分を基金でまかなえば、交付税措置の恩恵が受けられない場合や、国が年度途中で補正予算を措置しても、その機会を逸する可能性がある。

そこで改めて、平成30年8月29日、「高岡市財政健全化アドバイザー会議」における「高岡市の財政健全化に向けた意見」で、市債発行は単年度あたりの上限額に厳格にとらわれることなく、複数年度間で市債発行額を調整するなど適切かつ柔軟に行うよう助言されたこと等を踏まえ、財政の弾力性向上を再考すべきと考えるが、当局の所見は。

答弁

行財政改革推進プランに基づき基金と市債のバランスを適正化しつつも、物価上昇の影響は懸念される。議員指摘の通り、社会情勢の変化に対応し、市民生活を支える事業を着実に実施するため、適切な財政運営に必要な手立てを検討していく。

▶ 人口減少対策について

質問

日本の婚姻件数は1972年の約110万組をピークに、2023年には約47万組へと激減しています。注目すべきは、結婚した夫婦が持つ子供の数(完結出生児数)は1972年の2.20人から2021年も1.90人と、約50年間「2人前後」で安定している点です。一方、未婚者を含めた「合計特殊出生率」は1.20(2023年)まで低下しています。つまり、少子化の最大の要因は「子供が生まれない」ことではなく「未婚化」にあります。この数値の乖離に対する認識と、具体的な改善策を問いました。

答弁

価値観の多様化、雇用環境、ジェンダーギャップが複雑に絡み合っていると認識しています。「とやまマリッジサポートセンター」によるマッチング支援の強化に加え、ライフプランの啓発や男性の育休促進など、社会全体で結婚を後押しする環境づくりを推進します。

質問

20歳代女性を対象とした県の調査では、県外に留まる理由として「都市部への憧れ」以上に「働く環境への不安・不満」が上位にあります。若い女性がキャリアを描ける環境をどう整えるのか質しました。

答弁

学生と企業の交流機会の創出や、UIターン(地方移住)支援を強化します。女性に選ばれる職場環境づくりを目指し、企業への個別コンサルティングや無意識の偏見の解消に向けた取組みを働きかけていきます。

質問

南海トラフ地震等のリスクを背景に、太平洋側の企業がBCP(事業継続計画:災害時の事業継続体制)対策として拠点を分散させる動きがあります。交通インフラが整った「日本海側のハブ」としての本県の優位性を活かし、若い女性に魅力的な職種を戦略的に誘致すべきです。

答弁

「地方拠点強化税制」を活用し、本社機能の移転を強力に支援しています。独自の「サンドボックス予算(実証実験予算)」や「くらしたい国、とやま」のブランディングを通じ、デジタルやクリエイティブ関連など、多様な働く場の創出に向けて国と連携したトップセールスを展開します。

▶ 観光立県について

質問

インバウンド(訪日外国人客)獲得には空路の整備が鍵です。アジアの拠点都市数において、羽田空港の「14路線」に対し、関西国際空港は「64路線」と圧倒的です。ジェイキャスエアウェイズの関空・富山便就航計画を捉え、関西圏との接続を強化する戦略を問いました。



県の活性化に向け航空ネットワークの充実が必要

答弁

新規路線の開拓は空港活性化の最優先事項です。航空会社への着陸料減免などの情報収集を行い、関空ネットワークの活用を含めた積極的な働きかけを継続します。



質問

現在、岐阜方面のバスが運休中であるなど、空港から観光地への「二次交通(目的地への移動手段)」がボトルネックとなっています。アクセスの改善を強く求めました。

答弁

タクシーや混乗バスの活用、キャッシュレス決済の導入支援を進めます。交通事業者と連携し、空港からの観光ルートの確立に努めます。結び、観光の賑わいを支えるには、その基盤となる行政組織の効率性と、住民の安全を守る確固たる運営が欠かせません。

▶ 行政の効率性と適正性について

質問

将来の水道料金高騰を抑えるには、市町村の枠を超えた経営合理化が必要です。施設の共同化によるコスト削減効果を確実に享受するための取組方針を質しました。

答弁

将来の財政シミュレーションを市町村と共有し、ブロックごとの協議を加速させています。広域的な運営体制の構築により、安全な水の安定供給と経営基盤の強化を両立させます。

質問

統合警察署が、元々は「中学校の建設予定地」であった場所に



統合警署予定地の高岡西部中(水害や交通安全、治安等が懸念されている)

に移転することに伴い、周辺住民からは強い不安の声が上がっています。特に「グラウンドがアスファルト舗装されることによる雨水の排水問題(用排水路への流入増)」や、治安、騒音への懸念に対し、丁寧な対応を求めました。

答弁

住民説明会を通じ進捗を丁寧に報告します。アスファルト化に伴う排水対策や周辺パトロールの強化など、ハード・ソフト両面で不安を解消し、地域の信頼に応える施設を目指します。

質問

国の中学校35人学級化検討を踏まえ、過去の小学校導入時に自治体が校舎整備の重い負担を負った教訓をどう活かすのか問いました。

答弁

国の動向を注視し、市町村と早期に情報を共有します。空き教室の活用を含め、自治体に過度な負担が生じないよう、教育環境と施設整備のバランスを考慮した支援を行います。

質問

利便性の高い現施設の廃止は、公共交通を利用する学生らにとって大きな影響があります。跡地活用において地元市に一方的な負担を強くないよう求めました。

答弁

関係団体や市町村と丁寧に協議しており、新施設への円滑な移行を支援します。跡地利用についても地元の意向を最大限尊重し、共に検討を進めます。

健全な財政運営と 簡素で効率的な行政運営について

質問 地方公共団体は赤字地方債を発行できないため、自然災害等の予期せぬ事態の場合に備え基金等を一定程度確保する必要がある。本県が確保すべき基金規模の考え方は。

答弁 標準財政規模の5%に相当する約150億円を目安に確保に努めている。今般の震災対応では財政調整基金を十分活用し、対応できたのでこの目安は妥当と考える。引き続き必要な財源に不足がないよう対応していく。

質問 本県の一般会計の起債残高は、R7年度末で約1兆600億円の見込みで、その償還に同年度当初予算に913.5億円計上されている。昨今、金利が急激に上昇しており、県債利払い費増など公債費の増加は財政の硬直化を招くため、県債残高の適正な管理を図っていく必要があるが、所見は。

答弁 本県の財政指標(令和5年度決算ベース)は、実質公債費比率13.8%、将来負担比率217.7%と、全国下位の水準にある。一方でインフラ整備等への投資が必要だが、交付税措置のある有利な県債を活用するとともに、繰上償還も適切に対応するなどし、健全で持続的な財政運営に努める。

質問 県が保有する公共施設等について、予防保全型維持管理だと、30年間で約8,975億円に更新費用等が抑えられるが、各年度に要する経費299億円は、過去3年間の279億円を上回る。今後どのように公共施設等の保有総量の適正化や効率的な維持管理に取り組むのか。

答弁 県の公共施設は築30年以上の施設が67%を占める中、ハード面だけでなく時代に応じた機能面などソフト面からも検討が必要。新年度に外部委員から成る検討会を設置し、令和8年度をめどに県公共施設等総合管理方針を見直し、公共施設の保有総量の適正化や効率的な維持管理に繋げる。

質問 国が公共施設等総合管理計画の主たる記載内容を取りまとめた一覧で、23府県が設定している「施設保有量の削減」に関する数値目標を、本県でも設定すべきでは。

答弁 県公共施設等総合管理方針の前期最終年度の令和8年度を目途に、総務省の指針や包括外部監査の指摘を踏まえた記載事項の追加等(目標設定)を予定している。

質問 県が主導し、経営が厳しい公的病院の改善と、質の高い効率的な医療体制確保に向けた「地域医療連携推進法人」の活用について、知事の考えを問う。



経営が厳しい公的病院。
R7高岡市一般会計から市民病院事業会計へ10億円の長期貸付予算が計上

答弁 物価高騰対策等の支援を継続しつつ、病院間の機能分担を促進。法人の設立検討を支援し、医薬品の共同購入や人材交流を通じた経営の効率化、質の高い医療提供体制の構築を後押しする。



震災復興に係る問題について

質問 地震後の液状化対策である、地下水位低下工法におけるポンプ維持費などの住民負担を軽減するための公的支援を問う。

答弁 液状化対策が進むよう、決して少なくない維持管理費の負担を少しでも軽減させる方法がないかなど、今後、事業進捗に伴って生じる課題に各被災市と連携して可能な対策を検討していきたい。

観光振興について

質問



トヤマエビ。富山ブラックラーメンのように、ご当地ならではの食べ物として活用が望まれる。

一般的にはボタンエビと呼ばれる「トヤマエビ」の呼称の使用を県内外に働きかけ、トヤマエビの名称をすしネタに活用しては。

答弁 飲食店等での名称使用の働きかけや、SNS等を通じたストーリー性のある発信により、「寿司といえば、富山」を一層強く印象づけていく。

質問 本県の獅子舞伝承数は1,170件と、石川県の約1,100件や新潟県の約400件、岐阜県の約370件を凌ぎ全国トップ。この日本一のインパクトを基に、日本獅子舞競演会を開催しては。

答弁 県ではこれまでも市町村と連携して、地域や民間事業者による地域資源を活かした地域活性化の取組みを支援している。今後とも、住民や民間の皆さまが主体となった、このような取組みを促進していきたい。

人口減少対策について

質問 国は、相続等で取得した土地を国庫に帰属させる取組みを推進するとあるが、一方で、農地は土地改良区に賦課金を支払っている場合は制度が活用できないとの相談がある。そこで、持続可能な県土管理のため、相続土地国庫帰属制度について、国に制度の改善を求めている。

答弁 御質問の農地は、仮に国庫帰属が承認されない理由が土地改良区への賦課金の支払いだけであれば、土地改良区と協議し、賦課金を全額支払うことで国庫帰属の対象になり得ると考える。当制度は法施行から5年経過後に必要な措置を講ずるとされており、県としては、改正を要すると思った場合は国に改正要望を行う等対応していく。

令和6年能登半島地震からの復興と災害に強いまちづくりについて

質問 液状化防止の地下水位低下工法に係る施設等の長寿命化に要する経費のうち、ポンプの修繕等に支援し、電気料などの経常経費は含めないとのこと。熊本市では、全額公費負担で、同等の対応が望ましいと考えるが、県はどのような考えで支援事業を創設するのか。

答弁 液状化対策に係る長寿命化費について、新支援制度を県独自で創設し、市と県が1/2ずつ負担する。インフラ施設では国の補助率の多くが1/2程度で、これに倣った。一方、電気代などの経常経費は、他のインフラ施設でも補助対象外で、これらの経費は施設管理者や受益者負担が一般的であるため対象外とした。経常経費のあり方は、各被災市の判断に委ねることとした。

質問 高岡市での内水氾濫を例に見ると、国・県・市管理水路の合流点で、ポンプ及び人員不足で四屋地区等が浸水した事例がある。対応等をされていると思うが、県としても設備や体制強化が必要と考える。内水費被害の強化にどう取り組むか。



R7.8大雨被害の高岡市四屋地区。R6.7に続き2年連続で浸水。

答弁 地久子川などの河川改修、河川水位のリアルタイム配信や排水ポンプ車の作業支援のほか、連絡体制確認など、国や市町村等と連携して、安全・安心な暮らしの確保に努める。

質問 農業用排水路も内水被害の要因となり、排水処理能力向上や適切な維持管理に努める必要があるが、農家の高齢化・減少で厳しい状況にある。県として、内水被害対策として農業用排水路の適切な維持管理等にどう取り組んでいくか。

答弁 農村地域の良好な排水条件確保のため、降雨を一時的に水田に貯留させる田んぼダム、ICT技術による遠隔監視や施設統合など、省力化を実施していく。地域で管理する小規模水路等も、多面的機能支払などで地域協働活動の継続を推進する。今後も農業用水路の排水対策を土地改良区、市町村等が一丸で対応する。

医療・教育・福祉の充実による安全・安心のまちづくりについて

質問 2024年度決算で、県内13の公立病院が全て赤字となった今、抜本的な改革として地域医療構想推進が必要。目標年次は本年で、病床数適正化支援事業などを進めているが達成には至らない。次期構想の策定を含めどんな方針で取り組んでいくか。

答弁 県全体病床11,912床に対し、医療構想で想定するR7年必要病床数9,557床と乖離がある。県では医療需要の分析に加え、今年度、介護保険データ等を用いた医療介護連携の分析を進めている。今後、国が示すガイドラインを踏まえ、地域医療構想調整会議等で医療圏を超えた役割分担や連携の一層の強化等について、協議を進め、医療提供体制の再構築に取り組む。



質問 難聴児は、小学生になるとほとんどが補聴器等と組み合わせで補聴援助システム等を使って授業を受けている。この機器を家庭か学校のどちらが購入管理するか自治体で分かれている。教育に必要な機器だが、難聴児への対応に市町村間で差が生じている状況を踏まえ、県として対応すべきでは。

答弁 帰宅後に塾で使用するなどがあり、こうした市町村立学校の備品整備は、まずは該当自治体で判断されるべきと考えるが、教育機会の平等な提供の観点もある。来月開催の市町村教育長会議なので、各市町村の意見も伺っていきたい。

効率的で信頼ある行財政運営と県民への行政サービス向上について

質問 本県の道路管理業務が2021年度から全面民間委託となり、パトロール実施に9,500万円を要している。高岡市や富山市の道路通報システムや、昨年3月開始の国交省のLINE通報システムの周知等で道路維持管理の効率化を図っては。



国交省のシステム。日本全国の道路異常の通報がLINEアプリで可能。

答弁 パトロールと併せて別途維持管理作業も委託しており、休日夜間を問わず対応し、それらの費用が含まれている。国交省のLINEはR6.3月から県でも運用しており、昨年度(R5)は214件、今年度は4~7月で119件通報があった。有効な手段であり、活用して周知に努める必要があると考えている。

質問 軽油引取税の暫定税率について、運輸事業振興助成交付金としての支出額を踏まえ、廃止された場合の実質的な県財政への影響は。

答弁 仮に軽油引取税及び地方揮発油譲与税相当分として、年間約58億円の減収、うち軽油引取税で約53億円を見込んでいる。運輸事業振興助成交付金は、今年度約2.4億円を見込んでいるが、別途地方交付税による財政措置があるので影響は小さく、軽油引取税の暫定税率廃止に伴う影響額のほとんどが県財政へ直接影響する。

質問 R6年度内部統制評価報告書の件に関し、事故繰越手続き漏れで、18,832,500円の国補助金の返還となった。その原因と、事業執行に当たってどう対処したのか。

答弁 道路拡幅工事に伴い、沿道の住宅所有者と移転補償契約を締結したが、期限内に移転が完了せず、国への期限延長手続きも怠ったため返還となった。今後はチェック体制の強化に加え、土木部内で協議し、改めて組織的な対応を検討する。

警察署の再編統合について

質問 高岡・氷見警察署の統合の進捗が見えない。整備予定地は住宅街に位置しているため、住民の不安や要望等に応え、理解を得ながら進める必要がある。

答弁 県警察では、住民要望等に可能な限り応えられるよう関係各位と協議を進めている。新庁舎の新築整備は来年度以降、順次関連事業に着手する計画だが、地域の皆様方と緊密に連携を図りながら事業が円滑に進むよう取り組んでいく。

県議会 令和7年11月定例会 本会議

来訪者獲得による地域活性化について

質問 2025年大阪・関西万博の波及効果拡大事業費補助金の成果を問う。私の地元の「弥栄節保存会」が弥栄節を披露し、アンケート回答者の97.2%が「富山県に興味を持った、関わりたい」と回答した。こうした万博を活用した民間実施の成果について、万博後に繋がる取り組みの状況も含めて伺う。

答弁 県補助金による魅力発信は4団体で、各アンケートの大多数が本県やその開催市町村に行ってみるなど関わりたいと回答され、魅力発信効果は高かった。また、実施者は発信に喜び等を感じられたとのことで、県民のシビックプライド醸成、今後の活動の後押しになった。

質問 高岡テクノドーム別館に、地元経済界は宿泊施設やコンベンション誘致等を市に要望。今月15日に県へ同じ要望をするとのこと。これらを踏まえた別館整備後の利用促進の考えは。また、それに伴う周辺環境整備等を、高岡市と連携し進めては。



県の活性化に向け、しっかりとした別館及び周辺環境の整備が求められる。(別館の基本設計イメージ)

答弁 基本設計確定後に、配置や動線などが具体化する段階から本館との一体活用を視野に入れた誘致活動を本格化する方針で、県西部6市や経済界と連携して利用拡大を図っていく。周辺環境整備は、高岡市等と連携して取り組んで行く。

安全・安心のまちづくりについて

質問 国公表のR7.9生活保護の保護率は本県0.28(中核市等除く)と全国最低だが、富山子どもサポート弁護団では、利用への抵抗感と申請拒絶等が強いと感じるとのこと。申請拒絶の悲惨な例も拝聴したが、職員の資質向上にどう取り組んでいるか。

答弁 生活保護業務に携わる職員の資質向上のため、国に加え、県でも市町村に対して実務に即した支援をしてきた。また、今年度新たに、県と国が連携し、生活保護の前段階の生活困窮者を支援するための研修も実施予定。必要な方に適切な支援が行き届くよう、県や市町村職員の資質向上、生活保護制度の適切な運用に努める。

質問 県なりわい再建支援補助金に関し、交付決定が難航しているとの相談があった。県は復旧を促進してきたが、被災状況の証明等が困難な案件などの課題がある。県復旧・復興ロードマップはR8年度だが、中小企業等の復旧支援の現状と見通しは。

答弁 被災事業者復旧等支援窓口には、依然として多様な相談があり、本日の補正予算で補助金を30億追加計上した。また、被災当時の状況証明等が困難な案件は、施工業者等の第三者証明を認めるなど柔軟に運用している。一日も早い復旧・復興に向け、引き続き、被災事業者に寄り添った支援に努める。

質問 R7.10末の、16歳女子人口に対するHPVワクチン接種率が51.3%。次の一手としてワクチンの男女両方接種が提示され、海外データだが、男女とも接種率60%で10万人当たり4人未満の希少がんとなる。女性のワクチン接種率向上に向けた取り組みは。また市町村と連携し「男性接種への公費助成」を検討しては。



答弁 これまでも、ワクチン接種の実施主体である市町村等と連携し、予防接種の周知啓発に取り組んできた。男性接種は、希望者の自己負担で実施されており、国が予防接種法に位置付けて実施することが基本と考えている。

質問 2024年度決算で、県内全13公立病院が赤字。公的病院の経営も厳しく、同年度の県厚生連全体は約6.9億の赤字など。現在、国から病院事業の地方財政措置があることを踏まえ、自治体から公的病院に補助金等を拠出しているが、一層の連携及び支援が必要。今後、県民の医療提供体制の維持確保に向けどう取り組むのか。

答弁 これまで、光熱費や食材料費高騰分への補助等や、医師から他のスタッフへ業務を移管するタスク・シフト/シェアによる業務効率化等への支援に努めている。また、先ほど物価高騰に対する補正予算を追加提案するなどした。引き続き、地域医療介護総合確保基金なども活用し、より効率的な医療提供体制の再構築に取り組む。

未来に向けた人づくりの推進について

質問 ニュージーランドは、能動的学習の成果の一方で、R3.2ユニセフのデータでは、同国の精神的幸福度が38カ国中38位、15~19歳の若者の自殺率が41カ国中40位で、同国の教育の光と影を学んだ。日本かニュージーランドの二者択一でないと考えているが、知識を習得する教育と自主性等を育む教育の必要性をどう考えているか。

答弁 全国学力等調査の近年の結果では、本県の小・中学生は、自分で考え取り組んだとの回答割合は全国平均を下回っている。次期教育大綱素案では、基礎的学力の定着と共に、探求的な学習等を実践し、子どもの才能や個性を伸ばす教育を推進する。



地域展開後も、希望のスポーツ等に取り組める環境づくりが必要。

国が進める部活動の地域展開について、11月5日の国会議員有志の勉強会で予算確保を求めたとの報道があった。学校から地域クラブへの移手段や指導者確保、生徒が払う交通費や運営費等の課題に対し、県としてどのように対応していくのか。

答弁 国では、補正予算案に部活動の地域展開に関する事業を盛り込み、R8年度当初予算にも要求され、部活動改革を切れ目なく進めるとしている。これらの詳細の公表は来年1月に入ってからとのことだが、こうした動向を確認しつつ取り組んでいく。

質問 今定例会で補正予算計上の保育士の確保について、市町村からは潜在保育士の情報共有や、補助者でなく即正規での人員補充を望む声がある。潜在保育士確保に向けた保育補助者雇用促進制度について、市町村の意見を踏まえた対応が必要では。

答弁 当事業のほか、潜在保育士に保育士・保育所支援センターへの登録を呼びかけてその掘り起こしに努めるほか、同センターでの相談支援等で、再就職支援を行っている。引き続き、新たな担い手確保を含む総合的な保育人材確保対策に取り組む。

地域活動

議員活動は、「議会内」と「議会外」での活動に大きく分けられます。「富山の活性化」と「住み良い地域づくり」実現のため、本会議場や委員会室等の議会外でも様々な活動を行っています。ここではその内容についてお知らせします。



＝ 県議会



R6.12.4

令和6年11月富山県議会定例会(日ごろよりお世話になっている皆さまに傍聴いただきました)



議会関係



R7.1.28

会派同期一同で東京研修を実施



R7.4.23

会派同期一同で4車線化工事を進める東海北陸自動車道を視察



R7.6.4

副委員長として、富山県議会厚生環境常任委員会政府等に対する重要要望(厚生労働省伊原事務次官等、各所を訪問)



R7.6.5

第2期富山県教育の未来を考えるPT視察(メンバーとして洛北高校等へ)



R7.7.28~30

県議会厚生環境委員会行政視察



R7.8.26

富山県議会砂防事業促進議員連盟現地視察(立山砂防について調査研究)



R7.11.6

富山県議会出前講座(片山学園高等学校での主権者教育)



R7.12.11

会派政調会地方創生商工部会主催県内視察(半導体産業の現状と県内での展開等を学ぶ)



R7.12.18

富山県議会出前講座(富山南高等学校での主権者教育)



R7.12.22~23

山村振興議員連盟県外行政視察(NIPPONIA槽山集落等、福島県内各地で集落振興等を学ぶ)



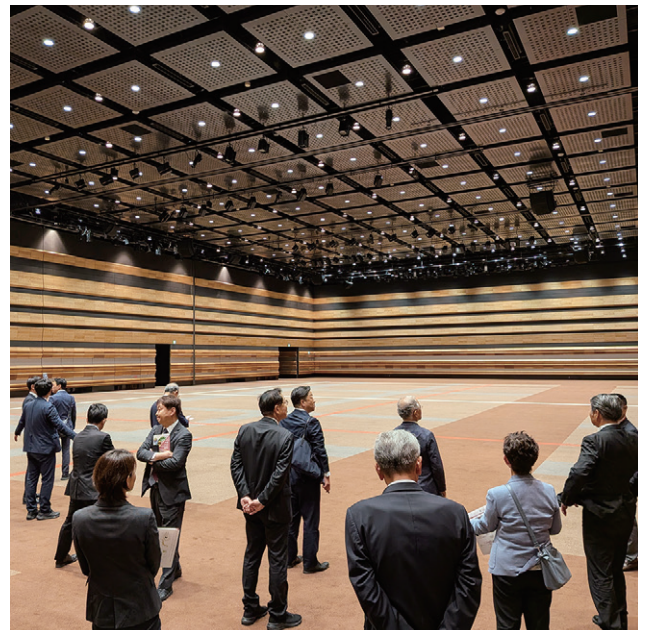
R8.1.13
富山県議会出前講座(高岡向陵高等学校での主権者教育)



R8.1.15
会派同期一同で県選出国會議員への令和8年度当初予算措置要望



R8.3.18
議員による県内鉄軌道フォトコンテスト表彰式(実行委メンバーとして運営)



R8.4.22~23
富山県議会観光振興議員連盟県外視察
(コンベンション推進施策、ラグジュアリーホテル建設効果等を調査)



R8.4.24
自民党水産問題調査会現地視察
(近畿大学水産研究所富山実験場の施設概要や今後の展望等を調査)

＝ 市 議 会



R6.1.24~25
議会会派「自由民主党高岡市議会議員会」「高岡愛」「無所属」合同視察研修
(県出身の東京大学地震研究所・古村孝志所長から能登半島地震について学ぶ等)



R6.3.24
高岡市立川原小学校閉校式
(母校に議長代理、副議長として出席)



R6.3.24
高岡市立西条小学校閉校式
(地元校に議長代理、副議長として出席)



R6.5.7
富山県西部市議会議長会総会・研修会、座談会
(座談会で、高岡市の令和6年能登半島地震の被害状況等を説明)



R6.6.10
フォートウェン留学生表敬訪問
(本田議長とともに対応)



R6.12.19
高岡市議会表彰式(市議として10年余、市政発展等につとめた功績を多とし、議決をもって表彰を受ける)

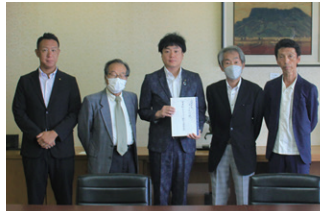


地域関係



R5.8.22

株新日軽北陸高岡工場が整備した消雪装置の配電盤を改修した株SCREEN等と現場確認



R5.8.30

金屋町自治会等の4団体で高岡市に対し、金屋町まちづくりに関する要望書提出



R6.2.9

大相撲高岡場所開催に向けた関係者協議(元大相撲力士・豊真将と)



R6.2.25

「高岡向陵高等学校相撲部」及び「五十嵐 翔選手」健闘祝賀会(高岡市相撲連盟副会長として企画運営)



R6.2.29

西条校下連合自治会等で、高岡警察署に対して「西条校区内の交通安全確保に向けた対応について」代理要望(昭和町交差点信号機の運用改善等)



R6.5.12

2024富山県空手道選手権大会(大会顧問として参画)



R6.5.25

(公財)高岡市スポーツ協会表彰式(H26年より市相撲連盟の副会長を10年務め連盟の発展に尽力)



R6.6.9

第19回高岡市民スポーツ大会兼第21回わんぱく相撲高岡場所兼第5回わんぱく相撲女子高岡場所(高岡JCの要請を受けわんぱく相撲協力)



R6.7.6~7

高岡・一宮商工会議所青年部交流事業(東海北陸自動車道の新全線開通を機に交流)



R6.7.14

高岡商工会議所青年部願い七夕事業に使用する竹の切り出し(高岡夏の一大行事に貢献)



R6.8.22~23

たちばな慶一郎高岡地区後援会青年部・自民党富山県第三選挙区支部青年局・自民党高岡市連青年局 合同中央視察研修。



R6.10.15

美幸町自治会で、警察と市に対し「富山県警察本部の新庁舎整備に伴う諸課題への対応について」要望



R6.10.27

富山県議会議員補欠選挙(高岡市選挙区)で当選



R6.11.30

元プロ野球選手高橋聡文氏来高による高岡西部球団等を対象とした野球教室(高岡第一高校の繋がりが高橋選手を誘致)



R7.1.19

高岡西部球団卒団式(球団顧問として参加)



R7.3.2

自民党富山県連青年局主催・第12回公募提案型政策コンテスト最終審査(自分が担当した富山短期大学生、党本部中曽根青年局長と)



R7.5.26

富山県理容生活衛生同業組合
第80回通常総会(顧問として挨拶)



R7.6.6

令和の万葉大茶会2025飛鳥・万博会会、
令和の万葉フェスティバル(万博会場での弥栄節披露に尽力)



R7.6.19

御印祭前夜祭
(地元議員として挨拶)



R7.7.5

越中泣き笑い相撲 令和7年場所
(高岡市相撲連盟で運営協力)



R7.7.8

高岡銅器協同組合が主催し、
市内の園児による新高岡駅風鈴設置
(高岡銅器発祥の
金屋町に係る地元議員として参加)



R7.7.23~24

全国若手議員の会第4回全国研修会
(担当副会長として
研修会の企画、運営を推進)



R7.8.16

第98回富山県青年相撲選手権大会に
向けた土俵づくり
(大会を主管する高岡市相撲連盟
副会長として、毎年設営から参画)



R7.9.2

(株)新日軽北陸が残した消雪装置に関し、
地権者と美幸町第4班消雪管理組合の
原状回復等に係る覚書締結



R7.10.14

俳優古村勇人氏と知事及び高岡市長に面会
(古村勇人富山後援会事務局長として)



R7.10.31

高岡市表彰式
(自治功労者表彰受賞)



R7.11.11~12

商工会議所青年部第9回全国ゴルフ大会環富士山大会
(次年度の高岡大会をPR)



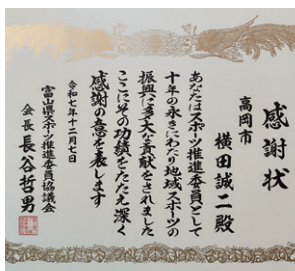
R7.11.15

弥栄節保存会
創立50周年記念感謝の集い
(地元議員として挨拶)



R7.11.16

新高岡市誕生20周年記念
第50回高岡こどもまつり
(高岡市児童クラブ
連合会会長として準備、運営)



R7.12.7

高岡市スポーツ推進委員協議会
感謝状(10年表彰)受賞



R8.1.10

第40回日本海高岡なべ祭り
(高岡商工会議所青年部で
海鮮シチュー鍋を作成)



R8.1.27

衆議院議員総選挙たちばな慶一郎出陣式
(自民党富山県第三選挙区
支部青年局長としてガンパロー唱和)



R8.2.14

オタヤこども食室寄付贈呈式立ち合い
(有限会社高岡クリーン環境、全国PHP友の会高岡)



R8.4.24

高岡第一高等学校人工芝グラウンド
完成記念式典(周辺自治会との調整に努める)



R8.4.27

国土交通省北陸地方整備局長への高岡環状道路(北側区間)
に関する要望(西条、守山地区、長慶寺工場協会等と)

トピックス

議員として、議会内外で「議会活動」と「地域活動」を行ったことにより実現・解決した各種要望や県政等の課題、あるいは県内外の組織・団体への役員就任など、様々な話題(トピックス)があります。

ここではその内容についてお知らせします。



課題、要望の解決・実現

産業振興及び住環境保全



国吉地域で酪農に取り組む「clover farm」(代表:青沼光氏)と、住環境保全を求める住民、そして行政の間に入り、国の畜産クラスター事業を活用した牛舎及び堆肥舎の整備を推進。

道路改修



交通環境改善のため、長慶寺工場協会地内の道路を改修。

道路改修



交通安全対策のため、横田町3丁目地内の道路側溝を改修。

街灯及びカーブミラー整備



交通安全及び防犯対策のため、行政及び企業と連携し、美幸町と本郷の境界地内に街灯及びカーブミラーを整備。

道路改修



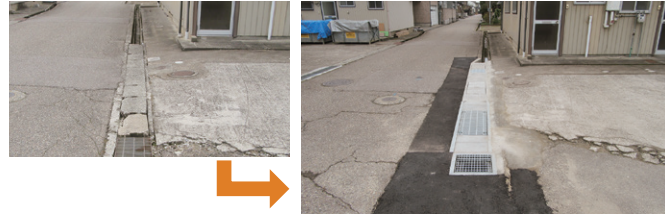
車両事故を受け、交通安全対策のため長慶寺地内の道路側溝を改修。

道路改修



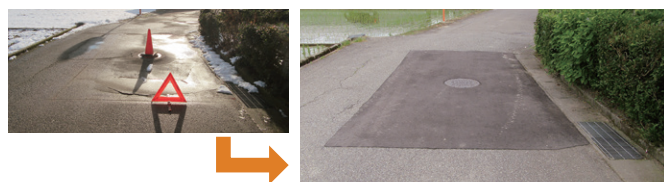
空き地への住宅整備に向け、交通環境等改善のため西町地内の道路を改修。

道路改修



車両損傷事案を受け、交通環境改善のため瑞穂町地内の道路側溝を改修。

災害復旧



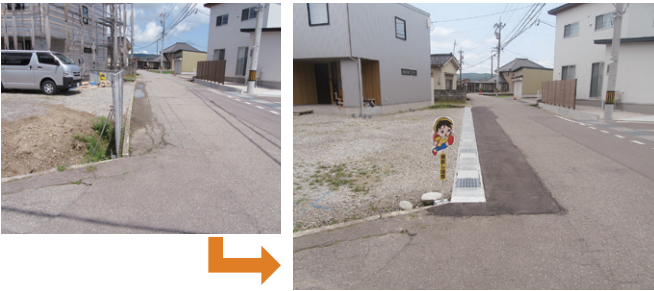
「令和6年能登半島地震」で被害が生じた、四屋や内免地内の道路を復旧。

道路改修



交通安全及び内水害対策のため、内免地内の狭隘な道路を改修。

道路改修



交通安全及び雨水排水対策のため、下窪地内の道路を改修。

空き家対策



安全対策のため、行政と連携し、四屋地内の空き家の適正な管理を推進(除却)。

道路改修



(株)新日軽北陸高岡工場跡地への企業進出に伴い、地権者である企業と行政、地元住民と連携し、横田(下窪)地内の道路を改修。

医療体制強化に向けた取り組み①



県西部唯一の三次救急医療を担う厚生連高岡病院の医療体制強化に向けた取り組みを支援。

病院が高岡高校生のため、東中川町に浸水対策等の住民要望に対応したテニスコートを新設し、病院に隣接する同校テニスコートとの等価交換を推進。

消雪設備改修



(株)新日軽北陸高岡工場が周辺住民のために整備した、旧GU敷地内の消雪設備を撤去するよう地権者から要請がなされた。

そこで、工場跡地に進出した企業及び行政と連携し、消雪設備撤去と合わせて、隣接の本郷・波岡・美幸町消雪管理組合の消雪管に接続する工事を、住民負担無しで実現。

道路改修



車両による人身事故を受け、交通安全及び防犯対策のため、R5~7年の3か年で本郷地内「西条緑地公園」周囲の樹木をフェンスに改修。

災害復旧



「令和6年能登半島地震」による被害及び経年劣化した、本郷地内の道路を復旧及び改修。

工事被害復旧



(株)新日軽北陸高岡工場跡地の解体で生じた住宅前駐車場の損傷について、企業と連携して復旧。

住環境改善

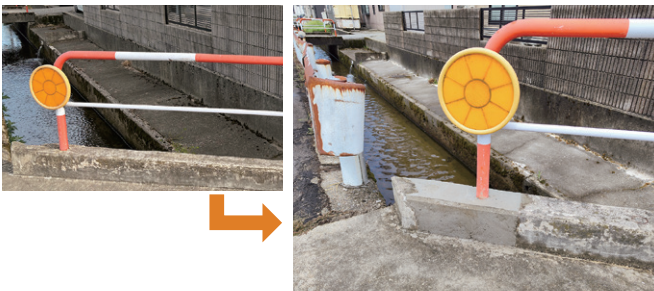


公共用地に隣接する住環境改善のため、本郷地内「西条緑地公園」の樹木剪定及び雑草対策のシートを敷設。

道路改修



安全対策のため、老朽化した本郷地内の道路関連設備を改修。



道路改修



雨水排水対策のため、四屋地内の道路(集水枿)を改修。

道路改修



雨水排水対策のため、四屋地内の道路を改修。

道路改修



交通環境改善のため、四屋地内の道路を改修。



災害復旧



令和6年能登半島地震で被害を受けた、四屋地内の四屋川流域を復旧。

企業設備改修(交差点改良)



交通安全対策のため、格子状フェンス設置企業と連携し、交差点付近のフェンスを切断して見通しを改善。

金屋鑄物師町交流館交流展示棟新築



(仮称)金屋鑄物師町工房を整備することで、全国からの若手人材の受け入れ等を促進し、高岡の伝統的な鑄物技術の継承及び地域の活性化を図る目的で、平成29年3月に市が「金屋鑄物師町工房(仮称)整備計画」を策定。

令和2年度に団体観光客等を屋内で受け入れできる鑄物師町交流館を整備し、令和7年度末に交流館交流展示棟を整備。

医療体制強化に向けた取り組み②



厚生連高岡病院の医療体制強化に向けた取り組みを支援。

第2段階として、病院隣接の高岡高校テニスコート跡地に駐車場110台分を整備。

役員就任

高岡市議会 副議長	令和5年12月定例会において、副議長に就任
高岡市議会関連の各役職	令和5年12月の高岡市議会定例会における議会諸役員交代に伴い、次の役職に就任 ・産業建設常任委員会 委員
自由民主党高岡市連合支部 常任総務	令和5年12月の高岡市議会人事に伴い、市連幹部協議により常任総務に就任
高岡商工会議所青年部 副会長	令和6年1月の定時総会において、令和6年度副会長の承認を受ける (任期は令和6年4月1日から令和7年3月31日)
高岡市児童クラブ連合会 副会長	令和6年4月の定期総会において、副会長に就任
西条地区体育振興会 副会長	令和6年4月の総会において、副会長に就任
高岡市体育振興会 理事	令和6年4月の西条地区体育振興会総会において、会長から理事に推薦され就任
富山県商工会議所青年部連合会 理事	令和6年5月の定時総会において、理事に選任(任期は令和6年4月1日から令和7年3月31日)
たちばな慶一郎高岡地区後援会青年部 副部長	令和6年6月の総会において、副部長に就任
全国若手議員の会 副会長	令和6年8月の定期総会において、副会長に就任(任期は令和6年9月1日から令和7年8月31日)
高岡万葉ロータリークラブ 会員	令和6年8月の第1621回例会において、会長から会員バッジを贈呈いただき入会
富山県議会関連の各役職	令和6年10月からの富山県議会議員の任期開始に伴い、次の役職に就任 (1) 議会関係 ・経営企画委員会 委員 ・地域公共交通対策特別委員会 委員 (2) 会派関係(自由民主党富山県議会議員会) ・政務調査会企画財務部会 会員
自由民主党高岡市連合支部 副幹事長	令和6年11月の役員会において、副幹事長に就任
高岡商工会議所青年部 専務理事	令和7年1月の定時総会において、令和7年度専務理事の承認を受ける (任期は令和7年4月1日から令和8年3月31日)
富山県議会関連の各役職	令和7年2月富山県議会定例会の諸会議及び会期中の会派議員総会において、次の役職に就任 (1) 議会関係 ・厚生環境委員会 副委員長 ・こどもの未来対策特別委員会 委員 ・IT活用検討委員会 委員 (2) 会派関係(自由民主党富山県議会議員会) ・政務調査会文教公安部会 会員 ・富山県教育の未来を考えるPT(第2期) メンバー
令和の万葉大茶会2025飛鳥・万博大会実行委員会 委員	令和7年3月の実行委員会において、委員に就任
西条地区体育振興会 会長	令和7年4月の総会において、会長に就任
高岡市児童クラブ連合会 会長	令和7年4月の定期総会において、会長に就任
高岡市理容生活衛生同業組合 名誉顧問	令和7年4月の定期総会において、名誉顧問に就任
高岡市体育振興会 参与	令和7年4月の総会において、参与に就任
富山県理容生活衛生同業組合 顧問	令和7年4月の理事会において、顧問に就任
自由民主党生衛議員協議会 世話人	令和7年4月の富山県理容生活衛生同業組合顧問就任に伴い、世話人に就任
自由民主党富山県支部連合会青年局 局長代行	令和7年5月の定期総会において、前の任期2年間に続き、局長代行に就任
自由民主党富山県支部連合会 組織委員会副委員長	令和7年5月の定期大会において、組織委員会副委員長に就任
自由民主党富山県第三選挙区支部 特命担当(青年局活性化担当)	令和7年6月の総務会において、特命担当(青年局活性化担当)に就任
一般社団法人富山県児童クラブ連合会 副会長	令和7年6月の定時総会において、副会長・理事に就任
自由民主党富山県第三選挙区支部青年局・部 局長	令和7年6月の役員会において、前の任期2年間に続き、局長に就任
タカマチ映画祭実行委員会 特別顧問	令和7年8月に要請を受け、特別顧問に就任
自由民主党高岡市連合支部 広報委員長	令和7年10月の全体役員会において、広報委員長に就任



第32回全国若手議員の会総会(副会長に就任)



高岡商工会議所青年部第109回定時総会
(令和7年度専務理事の承認を受ける)



令和7年度高岡市児童クラブ連合会定期総会
(会長に就任)

横田せいじのプロフィール

自己紹介 ○生年月日 昭和55年5月13日(46歳)
高岡市内免生まれ、美幸町在住
○趣味特技 野球、空手、登山、スキー・スノーボード、読書
○川原小学校、高岡西部中学校、
高岡第一高等学校、富山県立大学工学部卒業
○平成15年 高岡市役所入庁
『都市計画課(地域交通担当)』で、万葉線やコミュニティバスなどの公共交通政策に、『総務課(危機管理室)』で、防災や国民保護などの危機管理政策及び選挙業務に、『財政課(資金、財政・調査担当)』で、予算編成や起債、決算分析などの財政政策に携わる

経歴 ○平成24年 高岡市役所退職
○平成25年 高岡市議会議員(初当選)
○平成29年 高岡市議会議員(2期目)
○令和 3年 高岡市議会議員(3期目)
○令和 6年 高岡市議会議員辞職
富山県議会議員(初当選)

県議会等での役職 ○議会関係
・厚生環境委員会 副委員長
・こどもの未来対策特別委員会 委員
・IT活用検討委員会 委員
○会派関係(自由民主党富山県議会議員会)
・政務調査会文教公安部会 会員 ※詳細はトピックス参照

現役職資格等 ○全国若手議員の会副会長(2024-2025年度)
○全国若手市議会議員の会北信越ブロック代表(2019-2020年度)
○子宮頸がん予防ワクチン接種推進自治体議員連盟会員
○公益財団法人全日本スキー連盟認定スキー検定2級
○令和の万葉大茶会2025飛鳥・万博大会実行委員会委員
○神道政治連盟富山県地方議員懇談会幹事
○遼寧ファン倶楽部会員
○富山県理容生活衛生同業組合顧問
○一般社団法人富山県児童クラブ連合会副会長・理事
○高岡商工会議所参与
○富山県飲食業生活衛生同業組合高岡支部顧問
○高岡調理師会顧問
○高岡市理容生活衛生同業組合名誉顧問
○公益財団法人高岡市体育協会理事
○高岡市スキー連盟副会長
○高岡市相撲連盟副会長
○高岡市消防団広報紙編集委員会委員(平成30年度)
○高岡市消防団和田分団員
○高岡市スポーツ推進委員

○高岡市児童クラブ連合会会長
○高岡市体育振興会参与
○高岡万葉ロータリークラブ会員
○茶道裏千家淡交会高岡青年部会員
○「生活者としての外国人」のための日本語教育事業運営委員会委員(平成30年度)
○高岡市立西条公民館運営委員会相談役
○国境なきUNDOKAI実行委員会監査
○万葉大茶会実行委員会2021実行委員長
○高岡青年コミュニティ会議議長(令和2年度)
○高岡商工会議所緑水会会員
○高岡商工会議所青年部専務理事(令和7年度)
○高岡青年会議所シニアクラブ副事務局長
○高岡青年会議所第49代理事長
○第30回ホームタウン実行委員長
○高岡カラコルムクラブ会員
○South Takaoka Gunners FC相談役
○南西リーグスポーツ少年団野球大会副会長
○高岡西部スポーツ少年団育成会副会長
○高岡西部スポーツ少年団育成会野球部顧問
○西条校区青少年補導委員会顧問
○西条地区体育振興会会長
○西条地区社会福祉協議会顧問
○西条こぼとキッズ運営協議会相談役
○西条地区民生委員推薦準備会委員
○西条地区児童クラブ連絡協議会参与
○国条橋運動広場管理協力会事務局員
○国条橋パークゴルフクラブ顧問
○美幸町自治会相談役
○美幸町高齢者見守り隊事務局長兼会計
○内免神明町獅子舞保存会員
○高岡第一高等学校第38回生同窓会長
○高岡西部中学校同窓会副会長
○国際空手道連盟極真会館三段、審判資格
○財団法人日本体育協会公認スポーツリーダー・スポーツ少年団認定員
○たちばな慶一郎高岡地区後援会青年部副部長
○自由民主党富山県第三選挙区支部特命担当(青年局活性化担当)
○自由民主党富山県第三選挙区支部青年局長
○自由民主党富山県支部連合会組織委員会副委員長
○自由民主党富山県支部連合会青年局局長代行
○自由民主党生衛議員協議会世話人
○自由民主党高岡市連支部広報委員長
○自由民主党高岡市連支部青年局監事
○俳優 古村勇人富山後援会事務局長
○映画「デンサン」実行委員会副会長

最新情報ははこちら [Latest Information]



<https://yokotaseiji.net>

公式
サイト



<https://www.facebook.com/yokotaseijikouenkai>



<https://www.facebook.com/yokotaseijikouenkai>



<https://www.facebook.com/yokotaseiji>
個人アカウント(要認証)



https://x.com/yokota_seiji



<https://lin.ee/UIXhKuk>



<https://www.pref.toyama.jp/0100/gikai/develop/toyamaja.html>

刊行物



富山県議会だより
「TOYAMAジャーナル」